

「地域福祉学科卒業生の集い」の現状と課題

松永 美輝恵¹⁾*・三上 ゆみ¹⁾・道繁 由香里²⁾

地域福祉学科

(2012年11月28日受理)

「地域福祉学科卒業生の集い」は、①学びの場、②情報交換の場、③交流の場、と3つの場を提供することを目的として2009年に発足した。この会は、地域福祉学科の卒業生が主催して、卒業生を対象にした勉強会等を開催している。現在まで12回の取り組みを振り返るとともに、参加している卒業生の声から課題を抽出した。課題は、参加人数の拡大であり、これを解決するためには情報連絡網や経済的基盤の整備が必要であると考えられる。

はじめに

2006年1月、厚生労働省社会・援護局長の私的懇談会として「介護福祉士の在り方及びその養成プロセスの見直しに関する検討会」が設置された。その中で、介護福祉士資格は「幅広い利用者に対する基本的な介護を提供できる能力を有する資格」であり、介護福祉士は「資格を取得した後、介護を取り巻く環境の変化や介護技術の進歩等に対応するために、生涯にわたって自己研鑽し、知識・技能を向上させる」という基本的な考えがまとめられた。これを基に、介護福祉士の職能団体である日本介護福祉士会では、生涯研修制度を設け、経験年数に応じて必要となる知識や技術の習得や、キャリアアップシステムを導入して取り組んでいる。また、介護福祉士・看護師等の教員や職能団体の有資格者が、申し込みのあった介護施設等で出前講座を行うキャリア形成訪問指導事業なども実施されている。これらの研修を通じて、介護福祉士養成校を卒業した後の介護福祉士は、卒業後は本人および職場、介護福祉士会等におけるキャリア開発支援を行っている。しかし、本学卒業生より、「勤務の都合等のために十分に研修参加ができていない」、「学び直しがしたい」などの声が挙がっており、研修ニーズの高いことがわかった。

そこで、新見公立短期大学地域福祉学科の卒業生の研修ニーズに応えるために、本学卒業生を会員とした「地域福祉学科卒業生の集い」を2009年に設立した。

これまでの取り組みについて総括し、今後の課題について考察したので報告する。

I. 地域福祉学科卒業生の集いの目的

この会は、本学地域福祉学科の卒業生が主催し、①学びの場②情報交換の場③交流の場と3つの場を提供することを目的として、4～5回／年のペースで開催している。

II. 活動内容

地域福祉学科卒業生の集いは、卒業生が主催しており、1期生から15期生までの計797名と地域福祉学科教員が会員となっている（教員は2011年度から所属）。会の開催にあたっては、会員の希望により研修内容を決定し、卒業生同士の連絡網（メール、facebook、mixi等）や学報「まんさく」を使用して案内を行っている。県内に居住する卒業生を中心に、毎回10名前後の卒業生が参加しており、卒業年度の枠を超えた交流の機会となっている。

活動内容は、勉強会の開催や学生自主企画講演会への参加、卒業生が所属する施設の概要や取り組みなどの紹介などである。また、毎回、卒業生および教員が自由に会話できる交流できる時間を設けている（表1）。

以下に、それぞれの取り組みについて紹介する。

1. 本学教員及び学外講師による勉強会の開催

全12回の集いのうち、勉強会を7回実施し、学びの場を提供した。勉強会のテーマは、卒業生の希望を調整して学内及び学外の講師に依頼した。

開催内容は、第3回は吉村淳子講師の「高齢者と音」、第4回は松本百合美講師の「ケアの在り方について」、第5回は伊藤博康教授の「介護保険法と障害者自立支援法」、第

*連絡先：松永美輝恵 新見公立短期大学 地域福祉学科 718-8585 新見市西方1263-2

1) 新見公立短期大学地域福祉学科 2) 株式会社Green Leaf デイサービス・クローバー

表1 「地域福祉学科卒業生の集い」実績報告

開催日程		プログラム	参加人数
第1回	2009年 10月 10日 (土)	・卒業生及び教員との交流 ・今後の会運営に関する検討	16名
第2回	2010年 2月 6日 (土)	(グループワーク)「解決したい仕事の悩み」 ・次回研修テーマの検討, 交流	12名
第3回	2010年 4月 17日 (土)	(講義) 吉村淳子講師「高齢者と音」 ・次回研修テーマの検討, 交流	8名
第4回	2010年 6月 12日 (土)	(講義・演習) 松本百合美講師「ケアの在り方について」 ・次回研修テーマの検討, 交流	10名
第5回	2010年 9月 11日 (土)	・今後の活動についての検討	6名
第6回	2010年 11月 13日 (土)	(講義) 伊藤博康教授「介護保険と障害者自立支援法」 ・次回研修テーマの検討, 交流	8名
第7回	2011年 2月 28日 (月)	(発表) 赤井寿行(12期生)、赤木由香理(6期生) 「私の施設紹介します」 (講義) 高原一如先生(東城有栖会理事長)「生きる」 ・卒業生と在学生の交流	16名
第8回	2011年 5月 21日 (土)	・学生自主企画講演会への参加 ・卒業生の交流と情報交換会 ・次回研修テーマの検討, 交流	14名
第9回	2011年 7月 10日 (日)	(講義・演習) 鮎本英治先生(いきいきサポート代表) 「いきいきサポートチェアを使って介護予防対策トレーニング」 ・次回研修テーマの検討, 交流	8名
第10回	2011年 11月 19日 (土)	(講義) 井関智美教授「ターミナルケア」 ・次回研修テーマの検討, 交流	12名
第11回	2012年 5月 19日 (土)	・学生自主企画講演会への参加 ・次回研修テーマの検討, 交流	10名
第12回	2012年 7月 21日 (土)	(講義) 松永美輝恵助教「アクティビティケアの基礎から応用まで」 ・次回研修テーマの検討, 交流	15名

7回は高原一如先生(東城有栖会理事長)の「生きる」、第9回は鮎本英治先生(いきいきサポート代表)の「いきいきサポートチェアを使って介護予防対策トレーニング」、第10回は井関智美教授の「ターミナルケアについて」、第12回は松永美輝恵助教による「アクティビティケアの基礎から応用まで」であった。

2. 学生自主企画講演会への参加

学生自主企画講演会を学びの場として、卒業生が参加した。参加した講演会は、第1回の菅原俊博先生(特別養護老人ホーム寿恵園施設長)の「特別養護老人ホームにおける看取りケアの理論と実際～施設ケアマネジメントの視点から～」、第8回の森繁樹先生(特別養護老人ホーム旭川敬老園園長)の「生活支援としての認知症介護～介護の力～」、第11回の柴田久美子先生(なごみの里代表理

事)の「命のバトンを受け取るために」であった。参加した卒業生からは、「改めて介護の仕事を頑張ろうと思った。」や「介護の仕事をしているからこそ共感できるところもあった。もっとスキルを高めたい。」などの声が聞かれ、学びの場として良い機会であったことがうかがえた。

3. 卒業生による所属施設の紹介

卒業生が所属する介護施設の概要や現在取り組んでいる介護等について情報提供を行った。第7回では、赤井寿行さん(12期生)と道繁由香理さん(6期生)が、「私の施設を紹介します」をテーマにプレゼンテーションを行った。この発表を受けて、他施設に所属する卒業生が各自情報交換やディスカッションを行った。特に、「ユニットケアのメリット・デメリット」について熱心に意見が交わされ、予定時刻を超えて議論が行われた。

4. 卒業生同士の交流

毎回、会員同士の交流を図る時間を設けている。同期生や先輩・後輩などさまざまな者同士で、悩み相談を行ったり、今後の課題等について自由に話し合える交流の場を提供した。また、第2回では「解決したい仕事の悩み」をテーマに、卒業年次の異なる卒業生同士も自由にディスカッションを行っていた。

Ⅲ. 参加した卒業生が地域福祉学科卒業生の集いに期待すること

この会に複数回参加している卒業生2名に対して、参加した所感や今後の課題について訊いた。以下、抜粋して紹介する。

1. 卒業生 A

卒業生の集いに参加して、今まで交流のなかった先輩や後輩と一緒に介護について考えることができた。職場を超えての交流は、普段と異なる視点を持つことができ、よかった。しかし、勤務の都合でいつも参加できるわけではない。参加してみた際も、意外と参加者が少ないことに驚いた。できれば、同期の卒業生との交流もしたいので、参加を呼びかけてほしい。

2. 卒業生 B

先輩や後輩と気兼ねなく話せる雰囲気があるので参加しやすい。先生も参加して下さるようになってからは、仕事の悩みを聞いて下さるので嬉しいし、新見短大と繋がっている感じが好きである。また、短大でお世話になった先生の講義をもう一度受けることができることは意義があるし、学生に戻ったような新鮮な気持ちで良い。学生時代には知識を詰め込むことで必死だったが、今は経験と重ねて考えることができるので、より深く学びが

できていると思う。もう少し集いの回数を増やして、他の卒業生もどの日程かで参加できるようになれば良いと思う。

Ⅳ. まとめ

2009年より、年に数回のペースで開催している地域福祉学科卒業生の集いは、地域福祉学科卒業生の学びの場、情報交換の場、交流の場となっている。しかし、実際には卒業生が指摘するように勤務の都合等により、参加人数が少ないことが課題となっている。これは、勤務の都合だけでなく、全国各地で活躍する卒業生を多く集めるために必要な情報連絡網や経済的基盤の整備等が十分でないことも影響していると考えられる。今後は、より多くの卒業生に学びの場、情報交換の場、交流の場を提供できるように、これらの課題解決に取り組みたい。

謝辞

地域福祉学科卒業生の集い開催にあたり、無償ながら快く講師をお引き受けくださった先生方に深謝いたします。

文献

- 1) 高野恵子：介護福祉士養成と卒後教育の在り方。甲子園短期大学紀要，29，52-57，2011.
- 2) 豊田正利：介護福祉士養成教育の課題と展望－資格創設から今日に至る状況の概観をとおして－。保健福祉学研究，6，155-167，2008.
- 3) 奥田真紀子，栗林千幸：介護福祉士の養成カリキュラムに関する検討。奈良佐保短期大学紀要，14，23-34，2006.